

2023年6月29日

日本の大阪湾に浮かぶ夢洲

関係各位

バードライフ・インターナショナルは、日本野鳥の会、WWF ジャパン、日本自然保護協会などの国内団体とともに、関係当局に対し、大阪湾に残された湿地環境の保全と回復のためにあらゆる手段を講じるよう求めます。

大阪湾の夢洲は、東アジア-オーストラリア・フライウェイのシギ・チドリの中継地です。国際自然保護連合（IUCN）のレッドリストで深刻な危機に分類されているヘラシギがここで観察されています。この場所は南港野鳥園と補完関係にあり、秋の渡りの記録から、同じ個体が両方の場所を利用していることがわかります。

長年にわたり、このような国際的に重要な生息地は工業用地や農業用地、住宅用地として転用され、シギ・チドリの個体数は著しく減少しています。今こそ、残された場所を保護し、回復させるためのあらゆる努力が必要です。

私たちは、2025年の大阪・関西万博に向けて計画されている開発や、万博期間中の利用および万博終了後の跡地利用によって、夢洲の湿地生息地が失われる可能性があると考えています。私たちは、博覧会協会、大阪市、その他の関係者が、専門家、市民団体、万博出展企業の知恵と技術的知見を活用し、夢洲の湿地環境の保全と再生を確実に行うとともに、南港野鳥園とともに大阪湾奥部の海岸環境再生の拠点とすることを求めます。

私たちは、夢洲におけるこれらの生態系の保全と再生が、日本を含む世界が昨年末に合意した「昆明・モンリオール生物多様性世界枠組」に示された自然に対する新たな世界目標の達成に向けた重要な貢献となることを、確信しています。

敬具

リチャード・グリメット

保全ディレクター